

令和4年度 第3回羽島市社会教育推進審議会 会議要旨

日 時	令和5年2月17日(金) 午後1時30分～午後2時41分
場 所	羽島市役所 301 会議室
出席者	<p>(社会教育委員) 出席者6人 松尾 東彦 委員(子ども会育成協議会代表) 白木 幸子 委員(女性団体代表) 森 正智 委員(文化協会代表) 鈴木登司雄 委員(コミュニティセンター館長会代表) 小森 博昭 委員(スポーツ推進会議代表) 高砂 房子 委員(学識経験者)</p> <p>(事務局) 伊藤 佳津子(市民協働部長) 岩田 睦巳(生涯学習課長) 番 重宗(図書館長) 箕浦 勝博(スポーツ推進課長) 大橋 寛子(生涯学習課主幹) 倉見 育瑠(同課主事)</p>
内 容	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料確認 ・会議開催成立の報告 ・会議公開及び傍聴の有無の報告 <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 議事 (令和4年度の取り組みについて)</p> <p>(1) 生涯学習課 資料に基づき事務局から説明</p> <p>(委員) 「二十歳のつどい」について、午前午後の2部制にする等の工夫を凝らしながら開催できてよかったと思うが、保護者の出席ができなかったのが少し残念。コロナ前のような開催ができることを期待している。</p> <p>(委員) この3年はコミュニティセンター関係も子どもと触れ合う行事が中止となっていたが、来年度からは取り組んでいきたい。</p>

(事務局)

子ども会のフェスティバルは縮小という形であったが開催された。また、中島小学校区のお祭りが開催されたと聞いており、子ども会の活動も少しずつ展開されている状況である。

(委員)

子どもたち自身が、仲間同士のつながりや地域のつながりを感じ、一般社会に適用できるように手助けするのが子ども会の役割だと思っている。

(委員)

わたしの主張はどれも素晴らしい発表でしたが、全員が女子生徒だったため男子生徒の発表も聞きたいと思った。

人権を考える会の講演会で、軍手をはめて折り紙を折る体験があり、障がいについて理解する良い機会となった。

(委員)

子ども会のジュニアリーダーは何名いるのか。また、子ども会の加入率が減っているように感じるが、実際はどうか。

(事務局)

具体的な数値についてはすぐに回答できないが、加入率は岐阜地区の市町と比べると羽島市はかなり高い。子ども会を解散するような話が出ていないが、運営が難しいという話を聞いている。

事務局としては、現在の加入率を維持していきたい。

(2) 図書館

資料に基づき事務局から説明

(委員)

電子書籍について、何冊くらい種類があるのか。また、利用状況を教えていただきたい。

(事務局)

3,400冊種類くらいの書籍がある。利用状況については、今年度は小中学校各1校の協力のもと実証実験を行い、1月は2校あわせて2,800冊の利用があった。今後については、今年の6月から市内全児童が利用できるよう進めていく。

(委員)

可能なかぎり電子書籍を増やし、子どもたちの要望に応じていただきたい。

(3) スポーツ推進課

資料に基づき事務局から説明

(委員)

学校運動部活動の地域移管について、詳細を教えてください。

(事務局)

教員の負担を軽減する理由から、地域の方に部活動の指導を委託している。部活動の指導を希望する教員については、兼職兼業で指導を行っている。

(委員)

平日の部活動は教員が引き続き指導を行い、休日の部活動は地域の方が指導を行っている。

冬の期間になると下校時間の兼ね合いで、平日の部活動が十分に行えなかった。竹鼻中学校は昨年4月から時間割の変更を行い、部活動の時間を確保した。

(委員)

市内の全学校が同じような活動をできるように工夫していただきたい。

(委員)

中央中学校は、「はしまなごみスポーツクラブ」と「はしま南部スポーツ村」に分かれて移管するということか。

(委員)

中央中学校では、野球部のように他校と合同で活動している部があり、どちらに所属するか検討している状況である。

4 閉会

以上